



台北医学大学口腔医学院を訪問した際の様子

台北医学大学口腔医学院と北海道医療大学歯学部間の 大学院デュアルPh.D.ディグリーについて



歯学部 教授 安彦 善裕

グローバル化を目指して活発に取り組んでいる本学歯学部では、その一環として台北医学大学とデュアルPh.D.プログラムを開始することとなりました。デュアルPh.D.プログラムとは、2つの大学間で単位を互換し、両者が認める試験に合格し、提出された論文が両者から学位論文と認定された場合、それぞれの大学から博士(Ph.D.)の称号を与えられる制度です。同プログラム制定に向け、本学歯学部と協定校である台北医学大学口腔医学院との間で、これまで教員がお互いの大学を訪問しながら、何度となく話し合いがもたれてきました。その結果、両校の合意が得られ、本年3月7日に本学サテライトキャンパスにて同プログラムの調印式が執り行われることとなりました。海外の大学とのデュアルPh.D.プログラムは、国内の私立大学歯学部では初めての取り組みになります。

来年度からこのプログラムが運用されますと、希望する大学院生は本学大学院歯学研究科在籍中に、台北医学大学口腔医学院PhDコースの一定の単位を修得した場合、本学からは博士(歯学)、台北医学大学からはそれに相当するDoctor of Philosophy(Ph.D.)の学位を取得できることとなります。国を超えた2つの大学から学位を取得することによって、国際社会か

らの認知度は確実に高くなることでしょう。また、本学の修了要件に加えて、台北医学大学での修了要件も満たす必要があるため、より高度な専門的知識を身につけ、より質の高い研究を遂行する能力に磨きをかけることができます。さらに、中長期にわたり台北市に滞在する必要があるため、共通言語である英語力の向上や、異なる文化圏での生活を経験することにより、国際的な感覚を身につけることもできます。したがって、本プログラムは国際的な視野やスキルを有し、歯科医学の分野で国際的に活躍する人材の育成にきわめて有効に機能することが期待されています。

台北医学大学は1960年に創立され、首都台北市のほぼ中心部に位置し、医学・歯学・薬学・看護学など7つの学部からなる台湾有数の医療系総合大学です。国際交流に力をいれており、国際化・グローバル化への取り組みはアジアではトップレベルです。本学では既に2004年12月に大学間学術交流協定を締結しており、これまでも学生の短期研修をはじめ様々な実質的交流を行ってきました。今回の本プログラムの提携により、両校のさらなる強固な連携関係の構築を基盤として、両校は日本、台湾において歯科医学研究の先導的役割を果たしていくことが期待されています。

CONTENTS

台北医学大学口腔医学院と 北海道医療大学歯学部間の 大学院デュアルPh.D.ディグリーについて	1
昇任教員紹介 定年退職される先生からのメッセージ	2
大学院歯学研究科の学生が 「第5回日本学術振興会育志賞」を受賞	4
2015年度入試結果速報 札幌市立高校との連携事業 札幌開成高校「ブレ先端科学特論」の 実施について	5
同窓会活動状況	6
地区別懇談会を開催 学内合同就職相談会を開催 「学園・同窓会役員懇談会」を開催しました。	8
私の学生時代	9
OB訪問[薬学部]	10
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS	11
SCP任命式 EDITOR'S NOTE	12

昇任教員紹介

昇任教員

平成26年11月1日付



歯学部教授
(総合教育学系(臨床教育管理運営))

長澤 敏行 (ながさわ としゆき)

PROFILE

東北大学歯学部卒業。東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了。東京医科歯科大学歯学部附属病院医員、同大学歯学部助手、ポストフォーサイズデンタルセンター文部省在外研究員、東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科助教、本学歯学部准教授等を経て、教授就任。歯学博士。

平成27年3月1日付



歯学部教授
(口腔機能修復・再建学系(デジタル歯科医学))

疋田 一洋 (ひきた かずひろ)

PROFILE

北海道大学歯学部卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。北海道大学歯学部附属病院医員、同大学歯学部助手、ベルギールーベンカトリック大学客員教授、本学個体差医療科学センター准教授等を経て教授就任。歯学博士。

Message

定年退職される先生からのメッセージ



薬学部 教授

武智 春子

昭和50年4月1日付で東日本学園大学薬学部薬品製造化学教室助手として採用していただきましたが、当時はまだ薬学部の校舎は建築中で、8月までは北大薬学部に入居させていただきながら、建物の完成を待ちかねておりました。

8月に薬学部の校舎が完成し、9月に一期生の学生さん達が、一斉に大学に入って来たときに、やっと大学の助手になれたのだという実感が湧いてきたのを覚えています。専門に在る時は、学生さんと一緒に研究をしていましたが、その指導の過程で、自分の伝えたいものを受け取ってもらえるということが、自分のやりがいにも繋がり、逆に私の方も学生さんから随分エネルギーをもらっていたような気がします。当時より今になって、改めてその時間の貴重さを感じています。

私は、薬学部に23年間在籍したのち、平成10年には薬

学部から全学教育を担う基礎教育部に異動になりました。ところが、3年後には基礎教育部が解体されて、再び薬学部の所属になり、その8年後には所属が大学教育開発センターとなり、そこから薬学部に出向する形になりました。このように在籍する部署はいろいろ変わりましたが、どこに属しても、基礎教育を担当する以上、どの学部の学生に対しても、等しく自分が教えている化学について、少しでも解って面白いと思ってもらいたくて今までやってきました。学生さんにとっては、一寸押しつけがましいような授業であったような気もしますが、どうだったでしょうか。

今改めて、多くの教職員の皆様と学生の皆さんに支えられて、この40年間を過ごして来られたと感じております。最後になりましたが、皆様に深く感謝申し上げますとともに、皆様の今後のさらなるご活躍と、本学の発展をお祈り申し上げます。



歯学部 教授

東城 庸介

本学歯学部薬理学講座に赴任して30年3ヶ月が過ぎ、この3月末で定年を迎えることになりました。思えば、あっという間の30年間でした。これまで、多くの皆様に支えられながら無事定年まで勤めることができましたこと、心から感謝申し上げます。

私は歯学部の6期生から薬理学の講義を担当してきました。ここ数年は私の薬理学を受講した卒業生の子弟が歯学部に入学するようになり、経過した年月の長さを改めて思い知らされます。学生には薬理学の面白さ、薬の作用の奥深さを伝えたいと、新しい話題や最先端の研究も織り込みながら授業を行ってきましたが、はたしてどれほど心に響く授業ができたことか。私は、今流のPCを使ったパワーポイント授業には馴染めず、昔流の板書とプリント中心の授業で押し通しました。「先生の授業は分かりやすい」「板書の内容がまとまっています、勉強しやすかった」などの学生諸君の言葉が、私にとって

は一番嬉しいことでした。

30年間の思い出は尽きません。中でも、個体差健康科学研究所の設立直後から、大野弘機所長(当時)を補佐して研究所の整備や運営に苦心したことを思い出します。平成14年度からの学術フロンティア推進事業や平成19年度からのハイテクリサーチセンター整備事業の運営に関わらせてもらい、本学の研究活動に少しは貢献できたかと思っています。

この4年間は、歯科衛生士専門学校の校長を務めさせていただきました。専任の先生方に支えられながら、そして元気な女子学生に囲まれての毎日は正直言って結構楽しかったです。歯学部を取り巻く状況は未だ厳しいですが、現在斎藤隆史歯学部長を中心に一丸となって完全復活に向け邁進しており、私も陰ながら応援させていただきます。

お世話になった皆様のご健勝と、本学の益々の発展を心からお祈りいたします。有り難うございました。



看護福祉学部 教授
石川 秀也

私は大学卒業後、北海道社会福祉協議会に10年間、北広島市高齢者総合ケアセンター聖芳園（特別養護老人ホームやデイサービスセンターなど、高齢者福祉の総合施設）に19年間、それぞれ勤務させていただき、2003年4月から本学看護福祉学部臨床福祉学科教授として採用いただきました。以来12年間、お付き合いいただいた卒業生、在学生、教職員の皆様、本当にありがとうございます。また、無知な私に貴重なご助言をくださった、数え切れないほどの社会福祉関係の施設・事業所や行政機関、教育機関の皆様、さらに素敵な関わりを下さったボランティアの方々や当事者団体などの皆様に厚く御礼申し上げます。

本学にお世話になる以前は、いくつかの大学などで非常勤講師をさせていただいてはありましたが、専任教員としての経験がなかったものですから、最初の頃は本当に大変でありました。シラバス作成、授業の準備と授業、講義資料の作成、さら

には様々な委員会や入試の仕事等々、初めてのことばかりで先輩の教員や事務局の皆様親切に教えていただきながら、なんとか今日を迎えたというのが実感でございます。

楽しかったことは、やはり学生さんとの関わりで、学内ばかりでなく、ゼミ旅行やコンパなど、本当にたくさんの良い思い出をいただきました。今でも、ずいぶんと以前に卒業した方々との付き合いがあり、キャンプに行ったり、飲み会に参加させてもらったり、長い付き合いになっている卒業生がいます。彼女・彼らとは、大学時代は学生と教員という関係でしたが、今では友人として、さらに社会福祉に働く同志としての関わりをさせてもらっており、これからも長い交流を図っていけたらと願っている次第です。

今後とも、本学がわが国にとって極めて有用な存在としてますます発展していくことを心から願ってやみません。

長い間、本当にありがとうございました。



心理科学部 教授
鈴木 裕子

1980年、東日本学園大学の歯学部口腔解剖第二講座に助手として赴任しました。当時、理学部の動物生理学で学位を取得したものの就職口が見つからず、研究生で居残っていたのですが、幸い採用となりホッとした記憶があります。

大学の前に今のようなJRの駅はなく、当別で降りて皆、バスで大学に通いました。ちょうど一期生が音別の教養から当別に移行してきた時でした。草創期の学生さん達は皆熱心で、年齢が近かったこともあって一緒に勉強をし、実習も一緒に居残り、お茶を楽しんだりしました。今は彼らのお子さん達が入学してきており、懐かしい名前に出会います。

また歯学部時代には1年間、シカゴのノースウェスタン大学に研究留学をさせていただき、札幌から大学までの通勤

で毎日が終わっていた私に、多少とも視野を広げる経験となり、大学には本当に感謝しております。

4年前に大学教育開発センターに異動し、心理科学部臨床心理学科に配属となりあいの里と当別を往復する日々となりました。歯学部時代の顕微鏡やマイクロームを使った研究はできなくなりましたが、配属された卒論の学生さん達に触発され、広い意味での味覚・嗅覚研究を続けることができました。また心理科学部でも、昔歯学部で教えた学生のお子さん、兄弟や姉妹が歯学部にいる学生さん達に出会うことができ、そこが私立大学のいいところと実感しております。

はや35年たちましたが、特に何事もなくこの時を迎えることができ、感謝の気持ちで一杯です。本学の益々のご発展をお祈り申し上げます。



歯学部 教授
橋本 昇

大変永い間お世話になりました。
北海道医療大学のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



以上の諸先生の他、薬学部 豊田教授、渡辺教授、
心理科学部 柳田准教授が定年退職されます。
ありがとうございました。

With heartfelt thanks.



薬学部 教授
豊田 栄子



薬学部 教授
渡辺 秀樹



心理科学部 准教授
柳田 寛

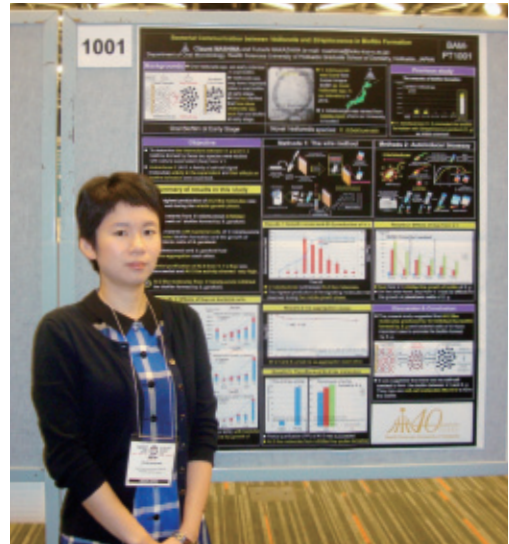
歯学領域で初受賞! 私立大学で3大学目の受賞!

本学大学院歯学研究科学生真島いづみさんが「第5回 日本学術振興会育志賞」を受賞!

第5回(平成26年度)日本学術振興会育志賞を本学大学院歯学研究科博士課程歯学専攻4年の真島いづみさんが受賞しました。「日本学術振興会育志賞」は、天皇陛下の御即位20年にあたり、若手研究者を支援・奨励するための事業の資として平成21年に陛下から御下賜金を賜り、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することを目的として平成22年度に創設されました。

毎年度の授賞者は16名程度で、授賞者には賞状、賞牌及び副賞として学業奨励金が贈呈されるほか、希望により翌年度からの日本学術振興会特別研究員として採用され研究費が支給されます。

これまでの5回の選考においては86名が受賞されていますが、歯科学領域では初受賞、私立大学ではこれまで2大学4名が受賞されており、本学は私立大学で3大学目の受賞となる極めて名誉ある受賞です。



●日本学術振興会育志賞とは

日本学術振興会は、天皇陛下の御即位20年にあたり、若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、平成21年に陛下から御下賜金を賜った。このような天皇陛下のお気持ちを受け、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することを目的として、平成22年度に創設。

受賞者紹介

北海道医療大学大学院歯学研究科博士課程
歯学専攻4年生 (本学歯学部 歯学科 卒業)

ましま
真島 いづみさん



う蝕や歯周病の予防法開発のため、分子生物学的な歯垢形成制御の臨床応用を目的として、新細菌種 *Veillonella tobetsuensis* (ベリオネラ トウベツエンシス) の発見等、初期歯垢形成に重要な役割を担う口腔ベリオネラに関する一貫した研究を主体的且つ発展的に遂行。



選択培地上の「ベリオネラ トウベツエンシス」



特徴的な「ベリオネラ トウベツエンシス」の赤色コロニー

●大学院における研究成果

学術雑誌に掲載された英語論文11報(総説を含む)、国際学会発表10回、国内学会発表17回(すべての学術論文及び学会発表は第一著者として報告)

優れた研究成果は国内外から高く評価

- International Seminar "Update in Oral Biofilm and Odontology Forensic" (インドネシア大学:2012年)の特別講演者
- 第54回歯科基礎医学会学術大会サテライトシンポジウム(奥羽大学:2012年)におけるシンポジストに招聘
- Research for International Collaboration Award (Taipei Medical University:2014)を受賞
- IADR Unilever Hatton Division Award (Cape town, South Africa:2014)を受賞

受賞者の研究者としての資質が評価され、日本学術振興会主催の第5回HOPE Meetingのメンバー(2013年)に選抜され、ノーベル賞受賞者やアジア・オセアニア各国代表の大学院生及び若手研究者と交流のほか、受賞者の高い研究遂行能力が評価され、これまでの大学院生期間中に、研究奨励金獲得(日本細菌学会北海道支部会:2012・2013年/北海道医療大学歯学会:2012年)、一般財団法人岩垂育英会奨学生(全国歯科系大学院生から毎年10名程度採用)に3年連続、公益財団法人森田奨学育英会奨学生(歯科大学院最終学年生から毎年1名程度採用)や一般社団法人大学女性協会安井医学奨学生(2014年度採用枠:全国医歯薬系大学院女子学生から1名採用)に採用されています。

北海道医療大学

一般前期入試を全国で実施。

本年度は1月30日・31日の2日間の日程で、札幌をはじめ、東北から関東、関西、九州までの全国12会場一般前期入試を実施しました。総志願者は、2,929名でした。

センター前期入試は募集回数が2回。

センター前期Aは3教科型、センター前期Bは2教科型入試です。それぞれの日程に出願できるので、両方に出願した場合は合格のチャンスが2回に増えます。志願者数は、1,930名でした。

編入学2期に12名の志願。

編入学試験を札幌、東京、大阪の3会場で実施しました。全体で12名の志願がありました。

2015年度 編入学試験(2期)結果

※()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科	社会人	3(3)	3(1)	2(1)	0(0)	—(—)
	一般		3(5)	3(5)	0(3)	—(1.7)
歯学部 ●歯学科	2年次	若干名 (若干名)	2(7)	1(6)	1(6)	1.0(1.0)
	3年次		0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
看護福祉学部 ●看護学科	社会人	3(3)	0(1)	—(1)	—(1)	—(1.0)
	一般		1(0)	1(—)	1(—)	1.0(—)
●臨床福祉学科	社会人	3(3)	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般		1(0)	1(—)	1(—)	1.0(—)
	指定校		0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
心理科学部 ●臨床心理学科	社会人	若干名 (若干名)	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般		0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	社会人	2 (若干名)	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般		1(3)	1(3)	0(1)	—(1.0)
●作業療法学科	社会人	2(3)	1(—)	1(—)	0(—)	—(—)
	一般		0(—)	—(—)	—(—)	—(—)
合計		—(—)	12(19)	10(18)	3(13)	3.3(1.4)

※心理科学部言語聴覚療法学科の編入学試験は、学科の改組転換に伴い、2015年度より編入学学生の募集を停止します。
なお2017年度よりリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の編入学試験を実施予定です。

2015年度 一般・センター前期入試結果

※()内は前年度実績

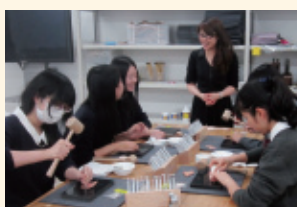
学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	
薬学部 ●薬学科	一般前期入試	1/30	65(65)	264(242)	250(235)	129(110)	3.6(3.8)
		1/31		227(189)	210(179)		
	センター前期入試	A	15(15)	246(267)	246(267)	64(64)	3.8(4.2)
		B	10(10)	68(130)	68(130)	24(40)	2.8(3.3)
歯学部 ●歯学科	一般前期入試	1/30	25(25)	91(60)	85(57)	94(65)	1.5(1.6)
		1/31		66(51)	57(46)		
	センター前期入試	A	5(5)	170(166)	170(166)	154(150)	1.1(1.1)
		B	3(3)	58(62)	58(62)	55(58)	1.1(1.1)
看護福祉学部 ●看護学科	一般前期入試	1/30	40(40)	342(378)	333(364)	104(103)	6.2(6.6)
		1/31		325(331)	313(316)		
	センター前期入試	A	8(8)	243(226)	243(226)	52(54)	4.7(4.2)
		B	6(6)	85(95)	85(95)	25(30)	3.4(3.2)
●臨床福祉学科	一般前期入試	1/30	23(23)	122(163)	119(160)	140(179)	1.6(1.7)
		1/31		115(147)	110(142)		
	センター前期入試	A	6(6)	96(119)	96(119)	92(102)	1.0(1.2)
		B	4(4)	64(91)	64(91)	62(90)	1.0(1.0)
心理科学部 ●臨床心理学科	一般前期入試	1/30	24(24)	142(212)	138(209)	142(132)	2.0(2.9)
		1/31		150(183)	142(175)		
	センター前期入試	A	8(8)	147(150)	147(150)	87(64)	1.7(2.3)
		B	6(6)	65(121)	65(121)	50(59)	1.3(2.1)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	一般前期入試	1/30	30(30)	199(254)	197(253)	67(65)	5.9(6.8)
		1/31		201(192)	195(191)		
	センター前期入試	A	7(7)	176(190)	176(190)	38(32)	4.6(5.9)
		B	6(6)	71(150)	71(150)	20(24)	3.6(6.3)
●作業療法学科	一般前期入試	1/30	14(14)	199(275)	195(270)	95(83)	4.3(6.0)
		1/31		219(230)	212(225)		
	センター前期入試	A	4(4)	191(200)	191(200)	51(51)	3.7(3.9)
		B	3(3)	71(130)	71(130)	30(31)	2.4(4.2)
●言語聴覚療法学科	一般前期入試	1/30	14(14)	127(177)	125(173)	102(85)	2.6(3.9)
		1/31		140(162)	136(157)		
	センター前期入試	A	8(8)	119(131)	119(131)	66(61)	1.8(2.1)
		B	6(6)	60(88)	60(88)	40(49)	1.5(1.8)
合計	一般前期入試	1/30	235(235)	1,486(1,761)	1,442(1,721)	873(822)	3.2(3.8)
		1/31		1,443(1,485)	1,375(1,431)		
	センター前期入試	A	61(61)	1,388(1,449)	1,388(1,449)	604(578)	2.3(2.5)
		B	44(44)	542(867)	542(867)	306(381)	1.8(2.3)

札幌市立高等学校との連携事業 「看護職・リハビリ職体験学習プログラム」実施

1月6日(火)、札幌市立高校(札幌旭丘高等学校、札幌開成高等学校、札幌清田高等学校、札幌啓北商業高等学校、札幌新川高等学校、札幌平岸高等学校、札幌藻岩高等学校、市立札幌大通高等学校)の学生64名が本学を訪問しました。

昨年に引き続き、3度目となるこの大学訪問は、大学と高等学校の教育活動(授業等)に対する相互支援を目的として行われたプログラムです。看護師、理学療法士、作業療法士の3分野に分かれ、午前中は模擬講義を、午後からは体験実習を行いました。

高校の授業とは違い、職業についての体験など大学ならではの講義に積極的に参加する姿が見受けられました。今回の体験学習プログラムの経験を元に将来の進路選択・決定の助力となれば幸いです。



札幌開成高等学校特別講義 「プレ先端科学特論」実施

1月7日(水)と8日(木)の2日間にわたり、札幌開成高等学校コスモサイエンス科1年生55名を対象に、特別講義「プレ先端科学特論」を実施しました。

テーマは「自分の遺伝子を解析してみよう」。初日は本学個体差健康科学研究所 太田亨教授による遺伝子の基礎についての講義と、自分の細胞からDNAを抽出し、耳垢型を解析する実験を実施。2日目は京都大学iPS細胞研究所基盤技術研究部門の原田直樹准教授による講義「遺伝病はなぜおこる?—遺伝病の治療とiPS細胞の可能性—」の後、初日の実験結果の確認や玉ねぎのDNAを抽出する実験を行いました。また2日間の成果についての確認とフリーディスカッションが行われました。

遺伝子解析実験や最先端の講義など大学ならではの学問・研究の様子を知る機会を持ち、またその内容について理解と興味を深めることができた有意義な時間を過ごしたようでした。



薬学部

〈創立年:1979年 会員数:約5,100名〉



薬学部
同窓会会長

田中 稔泰

薬学部同窓会は1979年に発足し、全国17の支部(道内7、道外10支部)で活動を行っておりますが、近年は会員数の増加に伴い支部の細分化の動きが出ているところであります。各支部におきましては、医療薬学セミナーと同時に総会や懇親会を毎年開催し、その地域での薬業や医療に関する情報交換を行っているところでありますが、最近では歯学部や他学部の同窓会とも連携したセミナーの開催を行っている支部もあり、学部の枠を超えた活動が始まっております。また、全国規模では、毎年開催される日本薬師学会学術大会において、開催地の支部が当番幹事となり、懇親会とセミナーを開催しております。一昨年は大阪大会で関西支部が中心となり、全国から約80名の卒業生が集まり情報交換と懇親を深めることができました。同窓会の活動はどのように会員同士の交流を深めながら、それぞれの仕事やモチベーションを

高めることを一つの目標としておりますので、全国の同窓生が一様に参画できるよう支部役員の協力を得ながら活性化を図ってまいりたいと考えております。また、大学への寄与に関しては、在学生も同窓会の準会員としておりますので、入学時に行われる定山溪温泉での宿泊研修にも同窓会として参加し、卒業生の講演や新入生の交流が深まるようゲーム大会等を開催しているところであります。また北海道薬学大会での発表の支援や同窓会が主催するセミナーにも参加できるよう準備を進めているところであります。このように我々同窓会としても、入学時から学生に対して支援を行い、大学に寄与できるように努力してまいりたいと考えております。

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~phalumni/>

歯学部

〈創立年:1984年 会員数:約3,000名〉



歯学部
同窓会会長

荻輪 隆宏

平素は、本会の活動にご理解ご協力、誠にありがとうございます。昨年、本会設立30周年を迎え「30年の軌跡に感謝、さらなる未来へ」をテーマに開催いたしました記念事業が、お蔭様をもちまして無事つつがなく行えましたこと、改めましてお礼申し上げます。お世話になりました多くの皆様と共に、お祝いできましたこと本当に嬉しく思っております。歯学部同窓会設立以来、この30年で歯科界は大きな変化を経験しました。そんななか、大過なく同窓会活動が行えたのは関わっていただきました、皆様のお力添えがあったからこそと、感謝しております。北の大地で共に学び、泣いて笑った仲間達や恩師とのご縁は、これからも未来永劫続くものと考えますが、本会が更に成長し、皆様の心の支柱に少しでもなれる歩みにしたいと思っております。30周年を記念して、「北海道医療大

学歯学部未来基金」を創設しました。歯科界の未来を担う学生や若い研究者を応援し、歯学部ひいては北海道医療大学を応援していきたいと考えております。これからも後援会の皆様と共に本会設立の責任を果たしつつ40年、50年に向かって進んで参りたいと思っておりますので何卒、ご支援ご協力よろしくお願いたします。皆様の幸せ心よりお祈り申し上げます。

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~d-alumni/dousoukai-honbu@clock.ocn.ne.jp>
事務局 札幌市北区北6条西6丁目2-11 第3山崎ビル4F
TEL 011-299-9069 FAX 011-299-9609

看護福祉学部／看護学科・札幌医療福祉専門学校／看護学科

〈創立年:1997年 会員数:約2,300名〉



看護学科
同窓会会長

川村 武昭

福慧会(看護学科同窓会)は1997年に発足して、今年度で18年目を迎え、20周年まで目前となりました。これもひとえに同窓生の皆さまを始め、大学並びに諸関係団体の皆さまの日頃からのご協力のお陰であることを深く感謝しております。主な活動内容としては、臨床福祉学科との協働で取り組む看護福祉学部同窓会セミナーと看護福祉学部学会の企画及び運営を主軸に、4学部及び歯科衛生士専門学校とともに協働で開催する同窓会連絡協議会や北海道医療大学同窓会コラボ☆講演会があります。また、これらの活動状況や各地で活躍する同窓生の近況報告等を同窓生の皆さんにお伝えする会報誌(Fukueikai)の発行やホームページの運営、同窓生同士の繋がりを保つものとして会員名簿の管理を行っています。そして、同窓会活動について検討する場として理事10名による同窓会理事会を定期的に開催しています。現在、会員数は2,000名を超えました。数年前からは他学部の同窓会とも活動するようになりました。会員数の増加と活動の広がりとともに考えさせられ

るのは、同窓会とは何か、何のための誰のための何を指す活動なのか、そして活動に携わる私たち自身の存在意義とは何かです。仕事をしながら、家庭を持ちながら、家族や友人との繋がりを持ちながら、たくさんの「ながら」を両手いっぱい抱えてもなお私たち同窓会理事が集い続けていること、そこに答えがあるように感じられる今日この頃です。これからも様々な場所で奮闘している同窓生同志が繋がりを感じられる活動を目指したいと考えています。そのために各期の幹事と理事10名が同窓生として、同じ職業人として安心して語り合える機会を持つことから始めていきたいと考えています。これからも随時、ホームページや会報誌をととして様々な活動状況をお伝えしていきますので是非ご覧ください。皆さまからのご意見やご要望をお待ちしております。

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~kango/kango@hoku-iryo-u.ac.jp>

看護福祉学部／臨床福祉学科・札幌医療福祉専門学校／介護福祉学科

〈創立年:2000年 会員数:約2,000名〉



臨床福祉学科
同窓会会長

小畑 友希

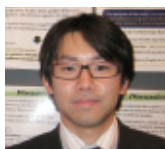
皆様には、日頃より当会の活動ならびに運営に関して、何かとご理解ご協力を賜りますことにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。さて、福祉・介護同窓会の役員は現在、MSW(医療ソーシャルワーカー)、高齢者施設や地域包括支援センターの相談員、障害者施設の支援員、大学の教員など9名で構成し、学術局、会計局、総務局などを担当しています。2ヶ月に一度の役員会では、各局の報告や今後の活動について話し合っています。特に今年度は会則の見直しに関して重点を置いてきました。大きな変更点は、在校生が準会員となる部分です。それに伴い、これまで以上に国家試験対策ガイダンスなど、在校生にとって役に立つ支援を行っていく所存です。また、同窓会セミナー(5月)、コラボ☆講演会(3月)など、他学部他学科と共催しています。年々回を重ねるごとに、分野に違いがあるが重なり合う部分

がみえ、他職種連携について学ぶ機会となっております。同窓会ホームページも随時更新しています。講演会などの案内や卒業生のエッセイが掲載されています。ぜひ、覗いてみてください。最後になりますが、2015年は当会設立から15年目の節目の年です。福祉・介護の専門職は、個人や家族だけで解決できない生活上の問題や課題をクライアントとともに解決していく仕事やそれに関連することに携わる仕事をしていきます。現場で日々社会福祉事業の質の向上に奮闘している会員の皆様がおなほ一層ご活躍頂けるよう、同窓会運営も行っていきたいと思っております。今後とも変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

fukudo@hoku-iryo-u.ac.jp

心理科学部／臨床心理学科

〈創立年:2006年 会員数:約500名〉



臨床心理学科
同窓会会長

本谷 亮

平素、同窓会活動へのご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。本同窓会の同窓生は、卒業後に道外へ移られる方が多く、なかなか直接会う機会を設けられないのが実状です。そのような中でも、同窓会の活動内容や同窓生・母校の近況に関して情報を伝えることによって、同窓生同士の交流が図れるよう努めております。今年度のセミナーは、昨年6月(第1回)に同窓生の内山貴美子先生をお招きし、産業領域のメンタルヘルズサポートについてお話いただきました。先生ご自身の経験も交えた大変わかりやすい内容で大盛況でした。本年3月(第2回)には、行動分析学の専門家である田中桜子先生に「無から有を生むこと:社会

の中での応用行動分析」のテーマで講演いただく予定です。来年度は、活動の効率化をさらに進めるとともに、在学生・同窓生の交流がシームレスになるような体制作りを目指していきます。同窓会運営にあたっては、他の同窓会から貴重なご意見をいただく機会があり感謝しております。引き続き連携をとりながら、さらに同窓会活動を充実させて参ります。今後ともよろしくお願いたします。

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~p.dousou/shinri-dousoukai@hotmail.co.jp>



言語聴覚療法学科
同窓会会長

石黒 恵美子

当会は講演会の企画・運営や会報の発行を通した現役生・卒業生の皆様への情報提供を中心に活動しております。東日本学園後援会・関係者の皆様のご理解・ご支援をいただき、おかげさまでスムーズに運営が行われています。この場を借りまして、深く御礼申し上げます。

今年度は、2014年6月21日(土)に言語聴覚療法学科同窓会セミナーを開催し、「認知症の早期診断～高次脳機能検査によるアプローチ～」をテーマに、本学の田村至先生にご講演いただきました。多数の方が参加され大盛況のうちに終わることができました。

2015年は、3月14日(土)第8弾コラボ☆講演会(摂食嚥下)、6月20日(土)同窓会セミナー(小児分野)の開催に向けて鋭意準備を進めております。卒業生だけでなく現役の学生さんにとりましても大変勉強になる講演会ですので、ぜひ多くの皆様にご参加いただきたいと存じます。今後とも“あいの里ST会”をよろしく願っています。

st-kai@hoku-iryo-u.ac.jp

北海道医療大学同窓会支部連絡先

■薬学部

支部名	支部長(期)	連絡先
札幌支部	多田 正人(4)	☎011-812-2311
道北支部	伊藤 裕康(14)	☎0166-35-5201
十勝支部	中村 章(1)	☎0155-62-0611
道南支部	吉田 元(12)	☎0138-27-7727
釧根支部	徳田 宏司(6)	☎0154-52-5052
ホーツク支部	新井 俊(10)	☎0157-31-3310
日胆支部	山田 達生(2)	☎0142-76-5258
青森支部	三上 章(1)	☎017-729-0330
栃木支部	橋本 秀雄(3)	☎0285-54-5080
茨城支部	西野 郁郎(1)	☎0293-42-0239
北越支部	杉本 雅規(3)	☎0761-43-1151
神奈川支部	川田 哲(3)	☎045-742-2301
東海支部	高尾 信彦(2)	☎053-451-0821
関西支部	新井 淑子(1)	☎078-261-2231
中四国支部	勝原 聡(3)	☎082-291-2104
九州支部	山田 昌人(3)	☎0965-52-5750
沖縄支部	伊波 重宏(5)	☎098-874-1818

■歯学部

支部名	支部長(期)	連絡先
北海道支部連合会	佐藤 明理(4)	医療法人社団明雄会そのまち歯科 ☎011-387-8811
青森県支部	佐藤 孝治(2)	佐藤 歯科医院 ☎0172-36-0412
秋田県支部	竹内 享(7)	竹内 歯科医院 ☎0182-22-2001
岩手県支部	渡辺 昌文(7)	わたなべ 歯科 ☎0197-61-2911
宮城県支部	佐々木 隆二(6)	ささき 歯科 ☎022-383-8849
山形県支部	芳賀 俊和(5)	芳賀 歯科医院 ☎0238-84-8107
福島県支部	早坂 弘(4)	早坂 歯科医院 ☎0248-24-6480
茨城県支部	秦 博文(2)	社会医療法人愛宣会ひたち医療センター ☎0294-37-0713
栃木県支部	斎藤 真一(3)	斎藤 歯科クリニック ☎0285-27-1234
群馬県支部	篠崎 広治(1)	しのざき 歯科医院 ☎0276-48-0118
埼玉県支部	伊藤 量蔵(5)	星和 歯科 ☎0489-63-0161
千葉県支部	寺山 功(4)	葉山 歯科医院 ☎0471-64-6480
東京都支部	石野 善男(2)	二子玉川ガーデン矯正歯科 ☎03-5491-5454

支部名	支部長(期)	連絡先
神奈川県支部	宮平 暁(5)	みやひら 歯科 ☎045-590-4601
山梨県支部	白壁 正光(8)	しらかべ 歯科医院 ☎0555-72-4182
富山県支部	藤川 晃(5)	藤川 歯科医院 ☎076-483-2231
石川県支部	久保 伸一郎(2)	粟津 歯科医院 ☎0761-44-4852
新潟県支部	布施 路子(6)	静雅堂 歯科医院 ☎0257-23-8840
長野県支部	小池 文一(2)	小池 歯科医院 ☎026-224-1482
愛知県支部	木村 英雄(1)	こめの 歯科医院 ☎052-451-1182
京都府支部	橋本 昌美(6)	こがはしもと 歯科医院 ☎075-935-8148
大阪府支部	西 一幸(1)	西 歯科医院 ☎06-6793-7500
広島県支部	早志 卓展(6)	たかひろデンタルクリニック ☎082-422-9600
四国支部	谷本 良司(3)	医療法人 谷本 歯科医院 ☎0883-42-2069
九州支部	清川 宗克(3)	清川 歯科・口腔外科クリニック ☎092-822-8805
沖縄県支部	玉城 均(1)	ながた 歯科医院 ☎098-854-1182

■看護福祉学部

☎0133-23-1211

- 看護学科(内線3688)担当:明野(実践基礎看護学講座)
- 臨床福祉学科(内線3708)担当:池森(医療福祉臨床学講座)

■心理科学部

☎011-778-8931(学務部 心理科学課)

- 臨床心理学科
- 言語聴覚療法学科

歯学部附属歯科衛生士専門学校

〈創立年:1991年 正会員数:1056名、準会員:23名〉



歯科衛生士専門学校
同窓会会長

梶 美奈子

1991年9月に北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会が発足して23年が過ぎました。4月に新入生を迎え、6月同窓会誌「いずみ」を発行、9月歯科衛生士公開講座、11月理事会、2月同窓生による講義そして3月には、卒業式と1年を通じた行事は、会員の皆様と母校の先生たちのおかげをもちまして滞りなく進めております。教員の方々には、多方面で支えて頂きまして大変感謝しております。

さて、我が母校は、歯学部附属であり薬学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部と連携しながら学び合えるという恵まれた環境にあります。

在学中から他職種連携の重要性を学び「連携する力」を身につけているものと考えています。日頃から、ご尽力いただいております母校の発展に貢献できるよう同窓会一同努力をしていきたいと考えております。

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~katakuri/
okahashi@hoku-iryo-u.ac.jp

歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会支部連絡先

北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 ☎0133-23-1211(内線3482)担当:大山・岡橋

卒業生を対象とした各セミナー・
公開講座に関するお問い合わせ先

広報・教育事業部
教育研究推進課

☎0133-23-1129(直通) e-mail:nice@hoku-iryo-u.ac.jp

平成26年度地区別懇談会を開催しました。 多数のご出席ありがとうございました。

平成26年度の地区別懇談会は、10月13日(月)から11月3日(月)までの期間、全国15地区16会場(右表参照)で開催し、829組1,171名のご父母の皆様にご出席くださいました。(出席率24.2%)

各会場では、総会(後援会・学園役員挨拶/学園動向報告)、学部・学校別懇談会(現況報告、国家試験・就職関連動向報告)、全体懇談会、個別



■総会(札幌会場)

面談(学生生活全般に係るご相談)を実施し、特に、担当教員との熱心な個別相談が行われていました。

講演会は、学生のサポート役、ご父母の皆様と卒業生、学園とをつなぐパイプ役として、また、学園の牽引役として組織の強化、地区支部の活性化、学生生活関連動向、同窓会活動支援等を柱とし、学生生活における快適な環境をつくることを大きな目的として事業活動を推進しております。

地区別懇談会は、後援会が「ご父母の皆様と学園を繋ぐ貴重な架け橋」として最も力を入れている事業活動のひとつであり、皆様により一層ご満足いただけるよう、内容の更なる充実に向け、今後も改善を図って参りますので、温かいご支援、ご理解とご協力を賜り、来年度もぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。

開催地	開催日	出席者数	
		大学大学院	専門学校
札幌	10月13日(月)	339組	16組
釧路	10月25日(土)	44組	5組
帯広	10月26日(日)	61組	5組
旭川	10月18日(土)	68組	5組
北見	10月19日(日)	40組	2組
函館	11月2日(日)	59組	2組
青森	11月3日(月)	34組	—
盛岡	11月3日(月)	13組	—
仙台	11月2日(日)	27組	—
東京	11月2日(日)	32組	—
名古屋	11月3日(月)	18組	1組
大阪	10月18日(土)	17組	—
広島	10月19日(日)	10組	—
福岡	10月18日(土)	18組	—
那覇	10月19日(日)	13組	—
小計		793組	36組
合計		829組	

平成26年度薬学生セミナー (学内合同就職相談会)を開催しました

12月3日(水)、薬学部学生を対象とした「平成26年度12月薬学生セミナー(学内合同就職相談会)」が開催されました。

当日は様々な団体から薬剤部門責任者・人事担当者など、127団体約230名の方が来学し、学生に対して就職や業界に関する説明・相談等をしていただきました。

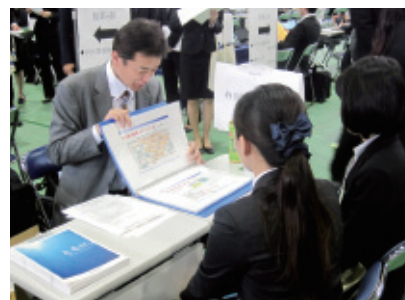
はじめに和田薬学部長ならびに小田薬学部就職委員会委員長(薬学部学生部長)からの挨拶ののち、相談会が開始されました。

参加した学生は各ブースを積極的に訪れ、真

剣な表情で説明を受けるなど、長時間の相談会にもかかわらず最後まで大きな賑わいをみせておりました。

本学では各学部で就職委員会を設置し、就職ガイダンスや専門講師を招いての各種セミナーを数多く実施するなど、学生のより確実な就職にむけて、教職員が一丸となってきめ細やかな指導をしております。

本学各学部・学科に関わる求人のお申し込み、就職に関するお問い合わせ等につきましては、学務部学生支援課までご連絡願います。



学生支援課(就職担当)

job@hoku-iryo-u.ac.jp TEL.0133-23-1102

[就職関連ホームページ] <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~syusyoku/index.html>

平成26年度「学園・同窓会役員懇談会」を開催しました。

11月27日(木)午後7時よりニューオータニ札幌において平成26年度「学園・同窓会役員懇談会」を開催しました。懇談会には、各同窓会役員等20名、並びに学園より新川学長や黒澤副学長、学園理事、各学部長・専門学校長、及び事務局の総勢38名が出席しました。

懇談会は、学長による挨拶の後、学園より入試概要・学園動向報告、学部・学校現況報告(資料配布)、また各同窓会より活動状況のご報告がありました。各同窓会と学園の間の強固かつ盤石な協働体制及び各同窓会相互の横断的な交流の重要性を再認識し、盛会裏に終了しました。



思えば遠くへ

薬学部
薬学科

教授 小田 和明



男子高校(群馬県は今でも公立高校は基本的に男女別学)での毎日は受験勉強に明け暮れ「暗黒の時代」のはずが…それはそこ、どんな環境でも劣等生は密かに集い、他愛も無いことに至福を見だし、夢のような楽しい3年間を過ごしてしまいました。結果はやはり、家族から離れ東京で1年間の暗い浪人生活となります。

そんな悪夢から解放された、私19歳の春、父の「学生運動と女性に気をつけて」



クラブ像と19歳の春

の声に送られて晴れて北海道の地で大学生活を始めました。理類という、成績次第で進学する学部が決まるという大切な時期に、授業そっちのけで、軟弱な(?)硬式庭球部に入り朝から晩迄、テニスの初歩「壁打ち」に励みました。今思い返してみると、中学、高校と剣道部に所属し、男の汗と臭いに満ちた薄暗い武道場で練習に明け暮れた反動だったのでしょう。動機は不純でしたが、ここで私は「生涯の伴侶」ならぬ「刎頭の友」と出会うことになります。

なんとか滑り込んだ薬学部では4年生に有機化学系講座を選択しました。そこでまさに実験にハマってしまいました…私の大学は国試合格率50%程度でしたが、先輩の「なんとかなるさ…」を愚かにも信じて、それこそ寝食を忘れて卒業研究に没頭しました。まさに画期的な薬が出来ることを夢見て。その流れから就職は製薬企業の研究所に、教授のコネで合格させて頂きました。

私の学生時代

今、大学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は小田 和明教授と白石 淳教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

思い出の詰まったアパート

看護福祉学部
臨床福祉学科

教授 白石 淳



私は、共通一次試験(現、センター試験)の第1回目を受験しました。「共通一次世代」です。現在は、教職課程において教育学を主として担当していますが、大学のスタートは、四国の高知大学理学部地学科です。地質用のハンマーを持ち、フィールドで岩石を叩いていました。その後、理科から教育経営、教育福祉に方向が変わり、学部・大学院等と、異



アパートのおばちゃんと仲間。左から2番目が私

なる5つの大学に通いました。

高知は坂本龍馬の地で、そこで私は、広大な太平洋を眺めながら少しだけ成長しました。ここでは、一番の思い出である私の生活の場「アパート」の話をします。キャッシュカードの使い方も知らない中で一人暮らしの始まりでした。住み家は、下宿のようなアパート。そのアパートは工事現場の事務所のような建物で、外に付けられた鉄の階段をタンタンと昇り、2階へ。2階の外の廊下に4つの各部屋のドアが並び、ドアを開け、靴を脱ぐと6畳間のみの部屋。ベッドは、酒屋で調達した黄色のビール瓶ケースを並べ、その上に布団を敷き完成。机は、夏でもこたつ。トイレ、キッチンはもちろん部屋の外にあり、階の共同です。風呂は、階段を降りて、10メートル程先の大家さん宅の庭にある風呂場(小屋?)、タオルと洗面器を持って走る。薪で沸かした湯へ。今でいうルームシェア(?)でしょうか。このようなアパートで過ごしたのが、私の学生時代です。それが最



東北大学との定期戦いわゆる「東北(トンペイ)戦」にて右は私が私

本当に良い時代でした。

卒業が迫り、講座の助教授(私の前任者町田實教授)から「開学する大学の薬学部に助手としてこないか?」とのお誘いを受けました。理由は「君より優秀な学生はたくさんいるが、この忙しい薬学部で体育会系クラブを卒業迄全うしたのはすごいよ」でした。「評価されたのはそこか…?」の思いも若干有りましたが、就職内定先にお詫びの連絡を入れ、日夜実験に明け暮れる本学での助手生活が始まりました。なん

と、それから教員生活40年、町田教授の後任として講座をお預かりし、あと2年余りで無事(?)定年を迎えます。まさに「思えば遠くへ来たものだ…」です。



田んぼのなかの思い出が詰まったアパート

も楽しかった。学科やアパートの仲間と、誰かの部屋にাগり込み、ビールとポテチ、日本酒と魚、飲・食を買い込んで、夜中までテレビを見ながら、レコードを聴きながら、ギターを持ち込みながら、しゃべったりと…自由にダラダラ。そのような中で、大学での学びの外に、大人の世間を少し垣間見ながら多くのことを学び、少し大人に近づきました。その仲間や下宿のおばちゃんとは、今も変わらず仲良く続いています。このアパートには、私の思い出が一杯詰まっています。

今は、学生のみなさんにとって、医療大学がこの街が、思い出がたくさん詰まった場所になるように願っています。私はそのお手伝いが少し出来たらいいなと、密かに思っています。

OB訪問

今回ご紹介するのは、札幌市郊外、豊かな森に抱かれた病院で勤務5年になる大久保さん。院内業務と共に、医療現場の課題に直結する研究を進め、精力的に学会やシンポジウムでの発表機会をつかんでいるアグレッシブな病院薬剤師です。

イムス札幌内科・リハビリテーション病院(札幌市) 薬剤師 大久保 利成さん

(薬学部総合薬学科[現・薬学科]2008年卒業、
大学院薬学研究科修士課程2010年修了)



■ 薬剤師、カッコいい!

大久保さんは、大学進学時に「得意な化学で確かな資格を」と薬学部を選択した一人。他の多くの薬学生同様、学び始めの薬剤師のイメージは漠然としたものでした。しかし、3年次、一つの薬剤師像が圧倒的なリアリティで迫ってきたといいます。市立札幌病院薬剤師長から本学教授に着任した唯野貢司教授です。「30年間医療の最前線にいた薬剤師が教授として来る! センセーショナルでした」と大久保さん。

「受け身ではなく、医師に処方提案、看護師に指導できる薬剤師に!」「科学者として研究心を失うな」。心に響く唯野教授の言葉に、大久保さんの中で知識としての「化学」が人と関わる「薬学」へと変わりました。そして臨床と研究、双翼で患者さんの利益を追求する病院薬剤師を未来の自分に重ねるようになりました。「カッコいい!」と思える薬剤師、唯野教授と出会えたから現在の自分があります。学部卒業後は大学院に進学、唯野教授の研究室で覚悟と志を固め、2010年、イムス札幌内科・リハビリテーション病院薬剤師に就職しました。

■ 医療人として、専門家として

大久保さんの勤務先は、内科、リハビリテーション科など5診療科、150床の病院で



大久保さんの職場自慢の一つが「チームワークのよさ」。取材時は、ある患者さんの腰痛について、あらゆる職種のスタッフが改善へのアイデアを出し合っていました。



リハビリスタッフとの1コマ。奥から2人目は本学卒業生の言語聴覚士・阿部耕大さん。この4人、スノーボード仲間でもあります。

す。外来は院外処方のため、大久保さん含め4名の薬剤師は、入院患者さんとのかわりが自然と深くなります。大久保さんも薬剤師の専門性に限定されない人間関係を大切にしています。ある末期がん患者さんは大久保さんを「一番頼りにしている病院の人」と呼びました。医療人冥利に尽きるこの言葉は、患者さんが亡くなり、時を経ても大久保さんの胸で温もりを失うことはありません。

患者さんのメリットに直結する薬剤師の仕事として、大久保さんは医師への処方提案を積極的に行っています。たとえば腎機能の低下した患者さんの薬の変更提案です。薬が体から排出されるプロセスは、腎臓の働きで尿から、または肝臓が関与して便から、と大きく2つです。腎機能が低下していると腎排泄の薬は体内に蓄積されやすく副作用のリス

クが高まるため、肝代謝の薬への変更を提案するのはです。また、医師の依頼で、抗生剤を安全、有効に投与するための間隔、量を決定する投与設計も薬の専門家としての責任と張り合いを感じる業務の一つだといいます。



柔道二段! 大学時代は柔道部部长として20人以上の部員をまとめ、東薬運大会でメダルも獲得しました。

■ 科学者魂を忘れない

研究活動も現場を知る薬剤師の視点で進めています。持参薬(転院患者さんが持参した他病院で処方された薬)の有効性とリスクについて、大久保さんは学会でも存在感を示すようになってきました。2014年は札幌病院薬剤師会のシンポジウムや北海道医療安全研究会、日本医療薬学会で発表者を務めました。さらに、現場とは別の課題解決に向けて、本学との共同研究も動き出しました。今後の目標の一つには、感染制御専門薬剤師の資格取得も挙げています。

やわらかな物腰からは意外に思えるほど強い芯が通っている大久保さん。「大久保さんに出会えたから現在の自分があります」と後輩に言わせる日が、きっと来るでしょう。



本学、唯野研究室の後輩、吉田涼さんと。研究、発表や講演の準備は通常業務を終えた18時頃からスタートです。

学友会

学友会の活動について

「学友会」は学生の課外活動組織で、学友会長(学長)の下、「体育局」「文化局」「大学祭実行委員会」から構成され、学生により運営されています。体育局、文化局では、各局所属のクラブ・同好会から選出された学生が局長・次長・局員となり、クラブ間の調整や取りまとめ、またイベントの企画や実施を行い、大学祭実行委員会では委員長・副委員長の他、会計や広報など機能別の役割担当が置かれ、学生による大学祭の企画・運営が行われています。

学友会組織をまとめ、運営方針の策定や調整をはかるために「学友会運営委員会」が置かれています。この委員会は、体育局長・次長、文化局長・次長、大学祭実行委員長・副委員長、各学部学生部の教員から構成され、学生が議長となり、主にクラブ・同好会の新設・改廃・昇降格や学友会予算の運用・執行について協議しています。また、各クラブの戦績報告や、大学祭の企画の精査および実施報告、学友会施設について等、学生の課外活動に係る事項について総合的に議題に取り上げられています。学友会はSCPと共に学生の代表とも言える組織です。学友会所属団体のみなさんと、学生生活をより良く過ごすための意見や要望がありましたら、各局長や委員長までお寄せください。

■学友会年間行事予定

4月	新入生オリエンテーションにて クラブ紹介(体育局・文化局)
5月	
6月	九十九祭(大学祭実行委員会)
7月	北海道地区大学体育大会(体育局所属クラブ参加)
8月	全日本歯科学生総合体育大会 (体育局所属クラブ参加)
9月	
10月	
11月	文化週間(文化局) 球技大会(大学祭実行委員会)
12月	
1月	
2月	
3月	

体育局

体育局を振り返って

体育局長 平田 倫也(看護福祉学部 臨床福祉学科3年)



学友会の体育局長に自ら志願した日から、早いものでもう1年間が経ちました。こうして、無事に任期を終えられた事にホッとしております。この1年間を思い出してみれば、色々な事がありました。例えば、体育館の割り当ての決め方が変わり、体育局の仕事が増えました。そのおかげでアルバイトを辞める事になり、学業に専念する事が出来るようになりました。冗談はさておき。私から最後に体育局所属の皆さんにお伝えしたい事はズバリ「クラブ数の減少」です。学部が増えた事による生徒数の増加とは裏腹に、クラブ数は減少の一途をたどっています。その影響で、例年よりも多くの新入生がクラブに入部してきて、練習場所に困ってきた団体が出てきました。そういう時は一度、ぜひ体育局、学生支援課に相談して下さい。皆さんの活動がより良いものになるように体育局はこれからも部活動に入って活躍する皆さんを応援します!1年間、ありがとうございました。

文化局

文化局を振り返って

文化局長 倉本 圭輔(看護福祉学部 看護学科3年)



文化局の仕事として、月に1度定例会を開催しており、その定例会を通じて各団体の活動が円滑に行えるよう運営しています。また、11月には文化週間という各団体がそれぞれの発表を行う場を設けており、その企画や運営を行っています。他にも予算面談や決算面談など、各団体がより良く活動ができるよう私たちが支援しています。今年度は世代交代という意味でも、定例会の開催や運営、文化週間での様々な運営などを文化局委員が行っていました。多くの団体が活動しやすいようにサポートをするというのは、とても大変なことだったかと思いますが、それを的確に行っていた様子であったと見受けられ、心強く感じています。このように定例会や文化週間等の行事の運営などが上手に進んだのも、各団体のみなさんの理解と協力があったことによるものであると思います。各団体のみなさんは毎年のことながら協力的であるため、大変助かっております。みなさんありがとうございます。そして、全ての開催や運営に関してのアドバイスなど様々な面でサポートしていただいた学生支援課の方々、大変お世話になり、本当にありがとうございました。これからも文化局はみなさんの活動をより良く行えるよう、サポートさせていただきますので、よろしくお願い致します。

大学祭実行委員会

九十九祭を振り返って

大学祭実行委員会委員長
菅原 美樹(看護福祉学部 看護学科3年)



今年で36回を迎えた大学祭「九十九祭」は、多くの皆様のご協力により、無事に終了することができました。まずはこの場をお借りし、感謝を申し上げます。九十九祭にご協力いただいた学生、教職員の皆様をはじめ、関係企業の皆様、ご協賛いただいた企業様、九十九

祭にご来場いただいたお客様、本当にありがとうございました。この数年で私たち実行委員会は、企画・運営、内容の定着、学外企業・団体との交流など、組織として成長することができました。そんな中、今年の大学祭では多くの新企画を取り入れ、ご来場いただくお客様一人ひとりに楽しんでもらえるよう、工夫を凝らしながら企画・運営を行ってまいりました。これまでの私たちは、前夜祭の開催及び花火の打ち上げ、屋外でのステージ発表、雨天時の対応など、実行委員会としての真価が問われるテーマに取り組み続けてまいりました。これらにはまだ

改善の必要があるものの、今回の大学祭ではある程度の成果が得ることができたと思います。しかしその一方で、これまで行ってきただことの限界や改善すべき点が感じられる大学祭でもありました。その改善点を、次年度の大学祭では改善することができるように努めていきたいと考えています。現在、実行委員会では、次回の大学祭に向け準備を進めております。関係者の皆様には、変わらぬご支援・ご協力をお願いいたしたいと思います。これからも私たち実行委員会と九十九祭をよりよくお願いいたします。

文化週間

「文化週間を振り返って」

文化局執行部
秋山 隼人(歯学部2年)

文化週間とは、文化局に所属している部活やサークルが展示発表や演奏会、日頃行っている活動の公開などを通して、学生や教職員など大勢の方々にそれぞれの団体が持っている活動内容を知っていただくために、毎年開催している企画です。今年は11月4日(火)～11月7日(金)にかけて開催しました。弦楽部や吹奏楽団による演奏会、ダンス同好会によるダンスイベント、美術部や写真部の展示会などそれぞれの団体の個性を生かして様々な発表を行い、今年度も昨年度以上に盛り上がりました。文化局に所属している団体の多くは、皆さんに活動を披露する場が少ないので、文化週間などを通して興味を持っていただけたら幸いです。最後になりましたが、文化週間に参加、協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。



球技大会

「白熱の5日間」

大学祭実行委員会
若松 来夢(リハビリテーション科学部 作業療法学科1年)

今年の秋季大会は11月10日(月)～11月14日(金)の5日間開催されました。当別キャンパス・札幌あいの里キャンパス、両キャンパスから参加があり大変白熱した試合が行われました。バスケットボール大会では、シュートが決まるたびに歓声があがり、観客を魅了していました。バレーボール大会は、ボールを繋ぐ姿から、チームの強い結束力が伝わってきました。フットサル大会においては、最後の1秒までボールを追い続ける姿から、決して諦めない気持ちがひしひしと伝わり、PK戦に臨む選手の顔立ちはとても緊張感のあるものでした。参加選手、観客、ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。





2014 SCP (学生キャンパス副学長) 任命式が行われました

10月14日(火)、2014 Student Campus President (学生キャンパス副学長) 任命式が行われました。

薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部から、選挙により選出された学生に対し、新川学長からSCP任命状と専用ブレザーが手渡され、激励の言葉を頂きました。

SCPは、より良い大学づくりのために学生代表が教職員とともに各種プロジェクトの企画・立案を

行い実施する、全国でもめずらしい北海道医療大学独自の制度です。

SCPの多岐にわたる活動は、全国から大変注目されています。

SCP活動状況については、随時、下記SCPホームページやブログにて報告いたします。

SCPホームページ
<http://scp.hoku-iryo-u.ac.jp/>



2014 各学部SCPよりご挨拶

薬学部 薬学科 2年
谷口 栄 (たにぐち さかえ)



「つながり」

私がSCP活動で主に行いたいのは、大学の主たる構成員である学生の皆さまから幅広く意見を聞き形にする事、SCPが行っている活動についての情報をホームページ等に発信してSCPがどのような組織なのかを幅広く知っていただく事です。

具体的に取り組みたいと考えているのは、イベント等を通して地域、他大学等の様々なコミュニティとの関わりと国際交流の活発化です。

このような機会を通し、学部・学科間をはじめ、地域や他大学の方々との交友関係や自身の視野を広げていく機会を学生の皆さまに提供したいと思います。

私自身、このような経験は初めてで不慣れな事が多いですが、精一杯務めさせていただき所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

歯学部 歯学科 2年
藤澤 友哉 (ふじさわ ゆうや)



「兎に角前進」

私は正直申しまして、まだ何をしようかと明確には決めておりませんが、北海道医療大学が医療系の総合大学である特徴を活かし、他学部との垣根を飛び越えての活動を意欲的に着手していく所存です。

私自身若輩者の上、色々な面で力不足であり、SCPになっても数多くの困難に直面することでしょう。しかし、自分と関わりのある、もしくはこれから出会う多種多様な方達と力を合わせることで、一人一人の限界を超えたパワーを発揮し、これから直面する困難を打ち壊す事が出来ると考えます。

私がSCPになった暁には、沢山の友達と協力し合い、ネバーギブアップの精神で全力投球していきますので、どうか温かい目で見守って下されば幸いです。

看護福祉学部 看護学科 2年
久光 佑弥 (ひさみつ ゆうや)



「どんなことでも『全力』で学べる大学を目指して」

看護福祉学部2年 久光佑弥です。私はSCPとして、私達学生の意見や大学への要望を積極的に大学へ伝え、私達の学生生活がよりよいものになる為に活動していきたいと思っています。

そのためには皆さんの協力が必要です。皆さんの学生生活への様々な要望を聞かせて下さい。

よろしくお願ひします。

心理科学部 臨床心理学科 2年 渡邊 泰羅 (わたなべ たいら)



「よき大学を目指す」

私はSCPになって、こんな大学にしていきたいという理想はありません。理想は皆さんと共に築き上げていきたいと思うからです。そのためには皆さんの多くの意見や希望が必要です。どんな些細なことでも構いません。もし些細すぎて心配なら、周りの友人と意見を交わしてみてください。もしかするとそれは些細なことなんかではないと気が付くかもしれません。そのようにして出してもらった意見から、皆さんと共に理想を作り上げていきたいと思っています。

また、来年度より心理科学部は当別キャンパスと札幌あいの里キャンパスに分かれますが、同じ道を志す先輩後輩の関係を構築をこれまで通り円滑に行えるようにする事など、新しくも重要な課題があると考えています。様々な課題毎によき対応策を練っていきたく考えていますのでよろしくお願いいたします。

リハビリテーション科学部 理学療法学科 2年 濱屋 幸佑 (はまや こうすけ)



「より良い大学をつくるため」

「より良い大学」とは何なのか決めるのは、私たちが在学生を含めこの大学に在籍する全ての人です。しかし、それだけではなく私は考えます。外から見て「良い大学」と決めるのは学外の一般の方々です。ですから「学内」と「学外」の両方の活動が必要です。

「学内」においては、私の所属するリハビリテーション科学部の学生の意見やアイデアをまとめ、他学部のSCPと協力してプロジェクトを立ち上げたいと考えています。具体的には、球技大会には含まれていないスポーツの大会を開催する事などです。

「学外」においては、地域交流やボランティアなど、普段学内では体験できないことを中心に考えていきたいです。

リハビリテーション科学部は新設学部であり、これから更に学生が増えます。それに従って大学に対する意見や要望も増えていくと考えられます。それらを取り纏め、「より良い大学」をつくるために私はSCPとして活動していきます。よろしくお願い致します。

EDITOR'S NOTE

春は旅立ちの季節、卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。今の皆さんの心境はいかがですか。新たな出発に希望や期待で一杯でしょうか？それとも不安や心配の方が強いでしょうか？これから皆さんはたくさんの出会いと経験を積み、社会人として成長していくことでしょう。そんな皆さんを卒業式で送るとき、毎回喜びと共に寂しさを感じます。「人生は帳尻が合うもの」とよく言われます。これからの人生で、成功もあれば失敗もあるでしょう。成功したときは有頂天にならずに気を引き締め、失敗したときは下を向かず前を向き、「且緩々」の言葉のように焦らずゆっくりとした気持ちで頑張ってください。

さて、この春には心理科学部が当別キャンパスに移転します。大学が充実するのは喜ばしいことですが、朝夕の電車の混雑が心配です。通勤・通学が悩みの種にならないように、お互いにマナーを守り、気持ちよく利用しましょう。

(K.E記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.160

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 中山 英二 鐘口 有秀
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 漆原 宏次 田村 至
大塚 裕之 木村 恵 杉原 佳奈 杉谷 昌彦
宮川 雄一 國見 明美 塚田 将人

発行日 ● 2015年3月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp>

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

